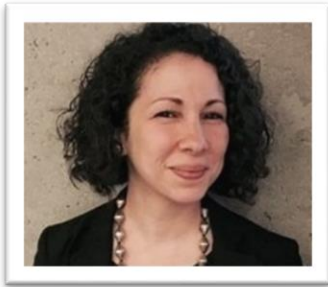


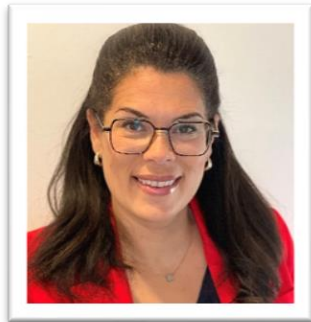
～高齢化における公共政策および健康分野イノベーションに関するセミナー～ケベックと日本

2022 年 11 月 30 日 8:00～11:40（日本時間）

プログラム

開会の辞	
8:00-8:15	- ケベック州政府 厚生社会福祉省代表（TBC） - ケベック州政府在日事務所代表 シェニエ・ラサール - 在モンリオール日本国総領事 齊藤純
全体会議 1 高齢者の生活環境	
8:15-8:20	トピックの説明
8:20-9:05	在宅介護支援における省の方針 厚生社会福祉省 在宅介護支援部長 メラニー・カヴァナ 
	居住型長期介護政策（PHSSLD）～我々に似た生活環境～ 厚生社会福祉省 シニアサービス・近親者介護サービス部長代理 ナタリー・トランブレ 
	高齢者等住宅(Maison des aînés)～要介護高齢者向け施設と居宅介護住宅改修～ 厚生社会福祉省 生活環境クオリティー部長 シルビー・カイエ 

	イノベーション事務局および価値実証に基づくイノベーション獲得戦略 厚生社会福祉省 イノベーション事務局長 ハスナ・ルイジ	
9:05 - 9:35	日本の高齢者福祉について 厚生労働省老健局 課長補佐 石毛雅之 厚生労働省老健局 課長補佐 佐藤 敏彦	 
9:35 - 9:50	質疑応答	
9:50 - 10:00	休憩	
全体会議2 アクティブエイジング		
10:00 - 10:05	トピックの説明	
10:05 - 10:45	人生100年時代における健康長寿社会の実現～“フレイル予防”を軸とする行動変容とまちづくり～ 東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター教授 飯島勝矢	

	神奈川県ヘルスケア・ニューフロティア政策とエイジフレンドリーシティに関する取組み 神奈川県 いのち・未来戦略本部室 増田みどり 
10 : 45 – 11 : 20	共に老い、共に生きる政策～ケベック州の自宅で、地域社会で～ 2018-2023 行動計画「あらゆる年齢のためのケベック」 厚生社会福祉省 シニア事務局局長 サブリナ・マリノ エイジフレンドリー自治体のアプローチ 厚生社会福祉省 シニア事務局局長 サブリナ・マリノ  家族介護を認定・支援する法令 厚生社会福祉省 シニアサービス・近親者介護サービス部長代理 ナタリー・トランブレ 
11 : 20 – 11 : 35	質疑応答
11 : 35 – 11 : 40	閉会の言葉：国際関係・フランス語圏担当省 インド太平洋地域担当局長 ガブリエール・シャータイエ

概要

「～高齢化における公共政策および健康分野イノベーションに関するセミナー～ケベックと日本」が、ケベック州・健康社会福祉省および同州国際関係フランコフォニー省による主催、在モンリオール日本国総領事館の共催のもと、2022 年 11 月 30 日 8 時から 11 時 40 分（日本時間）までの日程で開催されます。

本セミナーでは、下記 2 つのトピックに関して、ケベック州と日本政府の専門家らが、両国の最も効果的な高齢化対策アプローチ、そして高齢者向け最新技術について紹介します。その際、視聴者から専門家らへの質疑応答の時間を設けます。日本語とフランス語で実施し日仏同時通訳がつきます。

セミナーのトピック

高齢者の生活環境

高齢者は、各人の変化するニーズに応え、そこで老いることができるような自宅、民間老人ホーム、公共福祉施設などの自分のイメージに合った生活環境を探しています。ケベック州と日本は高齢化の進行に直面しており、公共政策とイノベーションを通して高齢者の希望やニーズに沿った生活環境を実現しようとしています。

ほとんどの高齢者が、自宅、もしくは慣れ親しんだ地域社会の中で老いていくことを望みます。しかし、高齢者の生活機能の低下に伴い、介護や医療の専門のサービスが必要になり、自宅から離れて専門の施設に移動しなければならない場合があります。そのような事態に備え、政府は、ケベック州と日本において人的資源が限られている点を考慮しつつ、最適かつ革新的なソリューションを考案し、質が高く安全な医療と介護サービスを提供する必要があります。

アクティブエイジング

平均寿命が延びていることは貴重な進歩であり、私たちの社会が成長している喜ばしい証拠です。しかし、高齢者が自律して生活でき、社会参加・貢献ができ、生活のあらゆる面で彼らのニーズが満たされる良好な環境を築き、彼らが最良の条件で歳を重ねられることが重要です。

すでに 2002 年の時点で、世界保健機関（WHO）はアクティブ・エイジングという政策的枠組みを提唱し、次のように定義しました。アクティブ・エイジングとは、人々が歳を重ねても、適切な保護、安全、およびケアを享受しながら、生涯にわたって身体的、社会的、および精神的な快適さを実現し、自らのニーズ、希望、および能力に応じて社会に参加することを可能にするものです。

これに応える形で、ケベック州と日本はそれぞれ、政策や計画を策定し、イノベーティブな施策を採用することで、アクティブエイジングと高齢者のよりよい生活の実現に努めています。

背景

ケベック州と日本は共通の人口問題を抱えており、どの社会も 65 歳以上の人口の割合が、他の年齢層人口に比べ急速に増え、深刻な高齢化が進んでいます。寿命が延びれば延びるほど、ケアやサービスを要する期間が延び、また必要なケア水準も高くなります。

各社会における革新的な手法を共有することで、ベストプラクティスを見出し高齢化対策を適用することができます。高齢化がもたらす社会・経済・健康の課題を改善する能力を向上する新しいソリューションを見つけなければなりません。日本とケベック州は先進的な取り組みをしており、それぞれの経験を共有することで、アクティブ・エイジングに大きく貢献できることでしょう。

申し込み

本セミナーへの参加は招待制です。

連絡先

ケベック州政府在日事務所
通商官 イノベーション担当 古角恵美
Emi.Kokado@mri.gouv.qc.ca